

バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第134号 [2016年4月]

さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8章22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+・・・+
主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第134号をお送りします。今月は『天国は、本当にある』という映画を鑑賞しました。この映画は、タッド・バーポ (Todd Burpo) という実在の牧師の実体験をもとに制作された映画です。先に同名の書籍の方を読むと映画の内容が詳しく分かる他、映画には出てこない天国情報が満載ですが、映画には、本に出てこない彼の感動的な説教が出て来るので、どちらもそれぞれにお薦めです。一家がこの本を書き上げて書名を何にしようかと考えていたとき、コルトンが「僕は、天国が本当にあるんだってこと、(読者に) 知ってもらいたい」と言ったので、この書籍名となったそうです。

タッドとソーニャには二人の子供、キャシーとコルトンがいました。このコルトンが旅先で嘔吐を繰り返し、主治医に診せても3日間、盲腸ではないと言われ続けました。しかし状態が極限になって二人がコルトンを大学病院に連れて行くと、診断は盲腸破裂、相当手遅れ状態なので緊急手術をしても助かる可能性は50%という診断でした。

緊急手術の間、個室で神への怒りをぶちまける父、泣きながら教会役員に電話をして村民全員に祈りを請う母。コルトンは一命をとりとめます。そして、瀕死だった間に上からパパとママの姿や医師の様子を見ていた事、天国に行くと神様とイエス様に会ったこと、自分が生まれる前にママが流産した女の子と会ってきたこと、パパが幼いころに死んだパパの祖父に会ったこと、天使が歌ってくれた事、イエスの服装、イエスの馬の様子、天国の門の美しさ、天使たちのサタンとの闘いなど、様々な事を話して家族や村人を驚かせます。(一部書籍からの抜粋)

この話は新聞やラジオでも報道されて全米の知るところとなりますが、当然のことながら賛否両論。天国は本当にあるのか。この子が語っているのは本当の事なのか。コルトンの父であり牧師であるタッドにとっても悩ましいテーマでした。そして悩みぬいた末、ある聖日説教でこう語ります。



息子は本当に天国に行ったのでしょうか。その答えはYesです。神のご意思でした。では天国はあるのか？もし本当にあるなら、それは人の生き方を改めるのではないのでしょうか。あなたは今までに赤ちゃんの産声や、友人の勇敢な姿、看護師や医師の救いの手や両親の愛に天国を見たことがあるでしょうか？それでも人は地獄を選んでしまう。そして憎しみ、恐れる。天国は存在するのかわか、一度は考えたことがあるでしょう。私は思います。天国はある。私はそれを見ました。だから信じるのです、信じることで意識は変わります。神は愛なのです。私は主の祈りを何万回も唱えてきました。でも心から唱えていたのか？私の息子は天国を見た。イエスのことも教えてくれます。イエス。この名前に救われる人もいれば、疑いを抱く人もいます。神は私を牧師に選んだが、私が皆さんと同じ考えをすることを神はお望みではない。神は私が英雄になる事も望まれていない。私がそう望んでも神の計画は違う。神は私の自尊心を砕き、広い心を与えた。愛です。私の使命はひとつ。愛で伝えること。人は孤独ではない。

この映画を観ていて思い出したのが高原剛一郎牧師の説教でした。高原師はヨブ記を開いてこう言われたのです。

「ヨブは悪魔の手により、7人の息子、3人の娘、羊7000匹、ラクダ3000頭、牛500くびき、雌ろば500頭を一気に失いました。しかしそれでも神を疑わずに信じ抜き、最終的に神様から以前の2倍の財を受けるのです。羊14000匹、ラクダ6000頭、牛1000くびき、雌ろば1000頭。そして7人の息子と3人の娘。変だと思いませんか？家畜の数は確かに2倍なのに、子供の数は失ったのと同じ数です。これは、最初に殺された子供達が全員、神の国に生きていると言う事の証ではないでしょうか。神の国に生きる10人の子供達と、再び与えられた10人の子供達を合わせて2倍の人数なのです。神様は、神の国が本当に存在することを聖書のこの箇所を通して証しているのです」